

中期財政計画を踏まえた 新庁舎整備の財源見通し

令和4年11月22日（火）
魚津市新庁舎整備検討委員会

【黒部市庁舎をベースにした場合の想定】

単位：億円

	分類	魚津市 (想定)	黒部市 (実績)	想定額の算出内訳
想定事業費	新築工事	54.3	44.0	◇10,000㎡×543千円=54.3億円 単価：黒部市の実績単価×国交省建設単価デフレーター
	設計等	2.8	1.5	◇官庁施設の設計業務等積算要領（平成31年改定） （基本設計+実施設計+監理）
	備品等	1.9	1.9	
	小計	59.0	47.4	
	外構工事ほか	2.0	-	◇外構工事 3,930㎡×7,220円=28,375千円 ◇構内緑化 1,033㎡×11,520円=11,900千円 ◇構内舗装 5,110㎡×9,340円=47,727千円 ◇複合化公園整備 5,000㎡ 1.1億円
	解体工事	9.0	-	◇解体工事 9,718.59㎡×20,030円≒2億円 単価：国交省R5新営予算単価（整地等）（本庁舎・分庁舎） アスベスト処分 9,718.59㎡×60,000円≒6億円 駐車場・公園等 解体・廃材処分費 1億円
	事業費 計	70.0	-	
財源	起債（借入金）	50.0	-	事業費の7割程度を借入可能と想定
	公共施設整備基金	20.0	-	事業費－起債（借入金）

公共施設整備基金の積立目標や、借入金の償還見通しを立てて、計画的に行財政運営を行っていく必要がある。

◇計画策定の目的

- 令和元年度に策定した「魚津市財政健全化計画（R2～R6）」に基づき行財政改革を進めてきた結果、目標を2年前倒しで達成（財政調整基金残高目標10億円超⇒R1以降、毎年2億円積立）
- 一方で、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化するなか、少子高齢化や人口減少により市税収入が落ち込み、社会保障費が増大
- 本庁舎をはじめとする公共施設の老朽化が進んでいることから、今後、その建て替えなどに多額の費用が必要



計画的な行財政運営に向けて「魚津市中期財政計画」を策定（R4.11.1公表）

- ①計画期間
令和5年度～令和9年度（5年間）
- ②計画の見直し
今後の財政状況や新たな行政需要などを考慮し、**毎年度見直し**

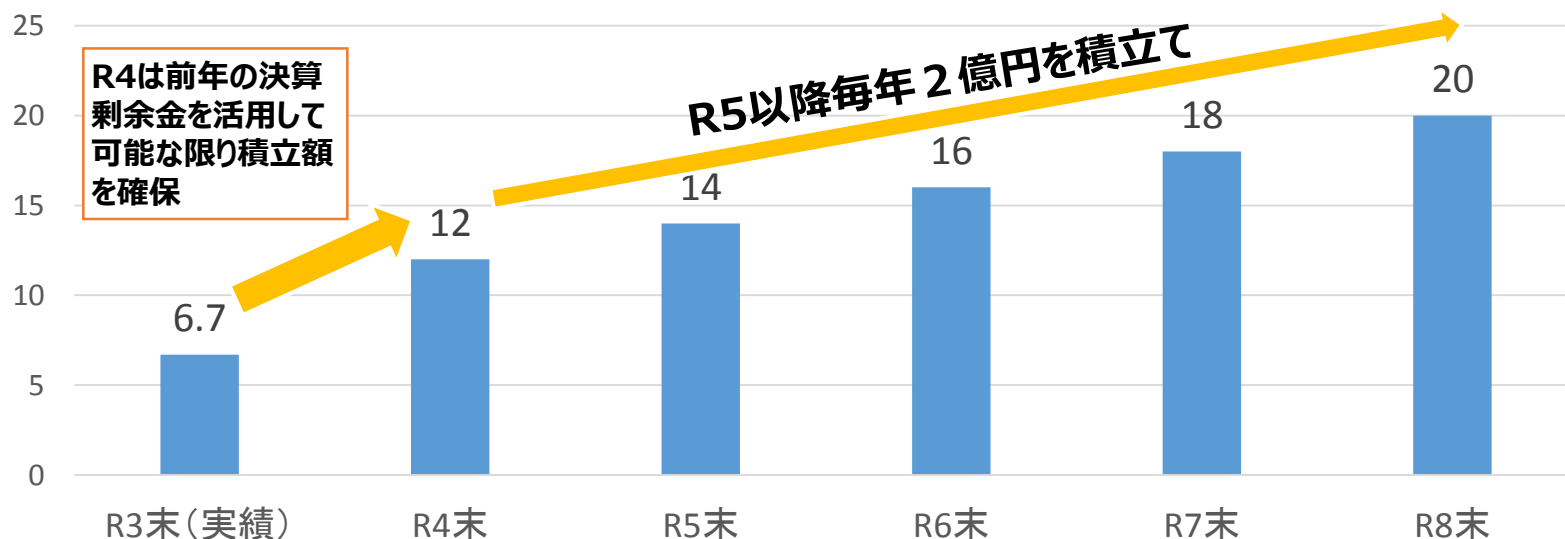
**現時点では新庁舎整備事業費を70億円で試算
⇒今後、庁舎規模等の検討とあわせて事業費を精査し、計画の見直し時に反映**

◇公共施設整備基金への積立

■魚津市では、今後、温水プールの建替えやコミュニティセンターの建設、新庁舎の整備などが予定されていることから、こういった大型事業に対応していくことができるよう、公共施設整備基金への積立を計画的に行い、備えておく必要があります。

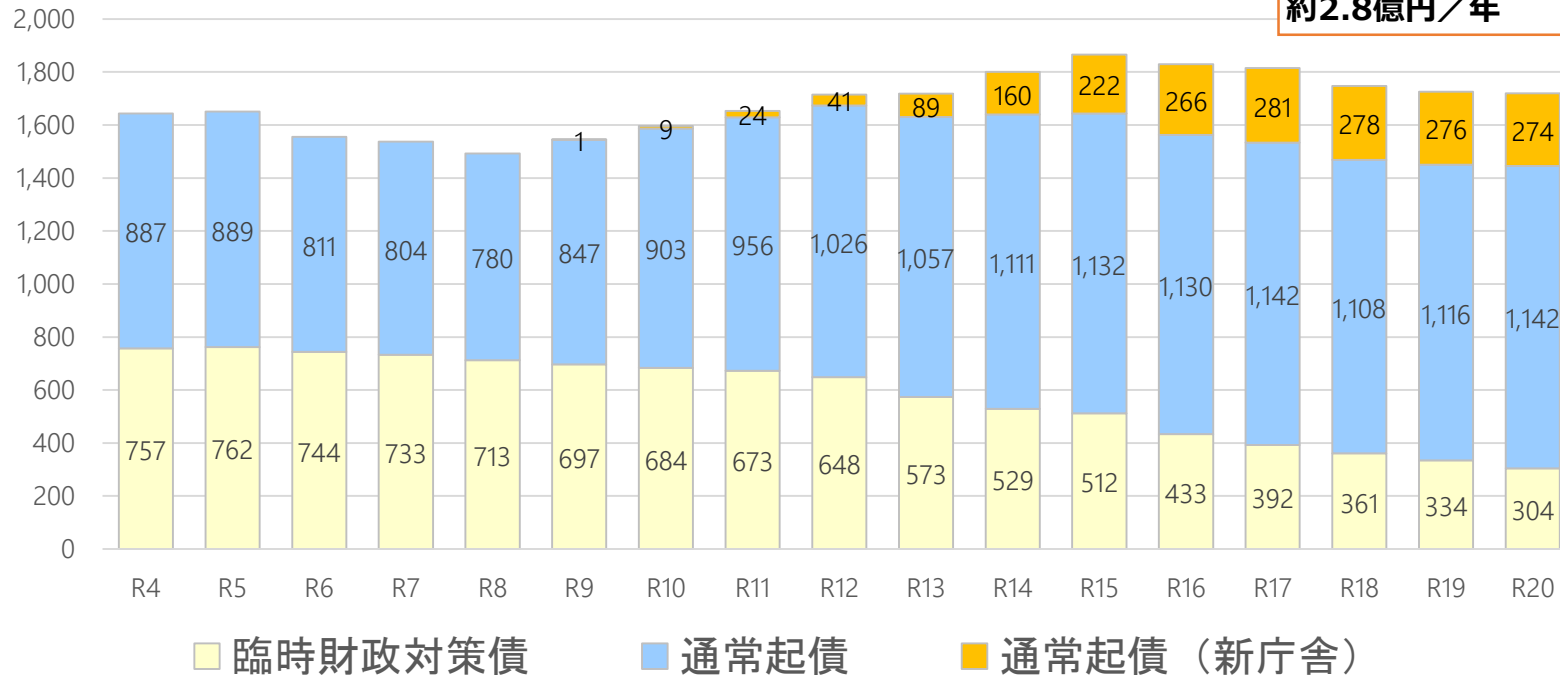
■このことから、令和5年度以降、毎年2億円以上を公共施設整備基金に積み立てていき、本格化する新庁舎の整備に備え、令和8年度末までに公共施設整備基金残高20億円以上を目指します。

公共施設整備基金の積立イメージ(億円)



◇公債費（借入金の償還額）の推計（単位：百万円）

新庁舎の償還額は
約2.8億円／年



※新庁舎整備費の試算条件：償還期間25年（元金償還3年据置）、利率1.0%

◇減債基金への積立

■ 温水プールや新庁舎の整備などにより、令和9年度以降、その建設に係る償還額が増加し、令和15年度にピークを迎える予定であることから、令和9年度以降一定期間において、剰余金を活用しながら、できるだけ減債基金への積立（2億円程度を想定）を行っていきます。